

KITOGO-HAN 木と合板

木とひと、暮らしを結ぶ誌上博物館

- 新木場 夏のトピックス
くらしと森林・木材の放射能をめぐるテーマで、
公開シンポジウム開催
- 新木場漫歩
銘木専門商社から総合木材商社へ
銘林



都心に出現した新しい交流型のビジネス空間
イトーキ東京インベーションセンター『SYNQA』の提案
思いきつた業態進化で、
新しい木材流通のビジョンを探る

都心のオフィスを「木」で満たすという試み
おもちゃ箱の中は「木」がいっぱい！木育のスタートするひろば
赤ちゃんからお年寄りまで
一緒に遊べるビッグで楽しい
おもちゃ箱

●夏休み特集 東京おもちゃ美術館で遊ぶ
●レポート 木の最前线

SUMMER 2013
22 夏号

博物館からのお知らせ



ベニヤレース初代1号機の模型が、新たに展示に加わりました

今年6月、ベニヤレース1号機の模型が、木材・合板博物館の展示に新たに加わりました。

合板製造は、原木から単板を剥き出す機械、ベニヤレースの開発によってはじめて可能となりました。その1号機は明治40（1907）年、浅野吉次郎の手によって完成し、その功績から浅野吉次郎は「日本の合板誕生の父」と呼ばれることになりました。

博物館は昨年開館5周年に際し、「浅野吉次郎コーナー」を開設し、氏の功績を示す数々の資料を展示しています。これら貴重な資料は、中日本合板工業組合のご厚情によって博物館に移設されたものです。

同コーナーに新たに加わった模型の大きさは、実物の約1/3スケール、手動で動かすことが出来ます。博物館は現代のベニヤレースの実演展示を行っています。ベニヤレース初代1号機から、現代のベニヤレースまで、合板製造技術の歴史を見ることができるようになりました。



「ベニヤレース1号機と浅野吉次郎」について詳しくは、次号で



木材・合板博物館のご案内

アクセス	東京メトロ有楽町線 JR京葉線 東京りんかい高速鉄道 東京メトロ東西線	新木場駅 → より徒歩7分 東陽町駅 → よりバス ②のりば／木11甲・木11折返 新木場一丁目バス停 より徒歩1分
開館時間	10:00~17:00 (最終入館時間16:30)	
入館料	無料	
休館日	月曜日、火曜日、祝日 年末年始 *都合により開館日・時間を変更することがあります *幼児および小学生の入館には、保護者のつきそいが必要です。 *団体での見学は事前にお申し込みください。	

表紙：国産材おもちゃ「森のどうぶつみき」（オークヴィレッジ株式会社、岐阜県高山市）。「グッドトイ2013」「林野庁長官賞」を受賞。（本誌 夏休みの特集参照）

木と合板 第22号 2013年9月1日発行 定価:525円(消費税込)
発行:特定非営利活動法人 木材・合板博物館
〒136-8405 東京都江東区新木場一丁目7番22号(新木場タワー)
TEL.03-3521-6600 FAX.03-3521-6602 Eメール:info@woodmuseum.jp
編集:「木と合板」編集委員会
制作:株式会社デジタルアート

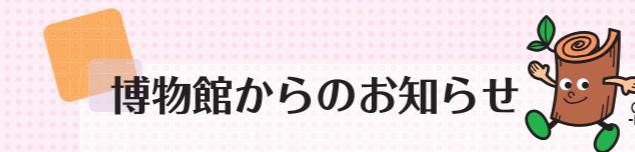


木材合板 で 検索 クリック!!



赤ちゃんからお年寄りまで
一緒に遊べるビッグで楽しい
おもちゃ箱

SUMMER 2013
22 夏号



ベニヤレース初代 1 号機の模型が、新たに展示に加わりました

今年6月、ベニヤレース1号機の模型が、木材・合板博物館の展示に新たに加わりました。

合板製造は、原木から単板を剥き出す機械、ベニヤレースの開発によってはじめて可能となりました。その1号機は明治40（1907）年、浅野吉次郎の手によって完成し、その功績から浅野吉次郎は「日本の合板誕生の父」と呼ばれることになりました。

博物館は昨年開館5周年に際し、「浅野吉次郎コーナー」を開設し、氏の功績を示す数々の資料を展示しています。これら貴重な資料は、中日本合板工業組合のご厚情によって博物館に移設されたものです。

同コーナーに新たに加わった模型の大きさは、実物の約1/3スケール、手動で動かすことが出来ます。博物館は現代のベニヤレースの実演展示を行っています。ベニヤレース初代1号機から、現代のベニヤレースまで、合板製造技術の歴史を見る事ができるようになりました。



「ベニヤレース1号機と浅野吉次郎」について詳しくは、次号で



表紙：国産材おもちゃ「森のどうぶつみき」（オークヴィレッジ株式会社、岐阜県高山市）、「グッドトイ2013」「林野庁官賞」を受賞。（本誌 夏休みの特集参照）

木と合板 第22号 2013年9月1日発行 定価:525円(消費税込)
発行:特定非営利活動法人 木材・合板博物館
〒136-8405 東京都江東区新木場一丁目7番22号(新木場タワー)
TEL.03-3521-6600 FAX.03-3521-6602 Eメール:info@woodmuseum.jp
編集:「木と合板」編集委員会
制作:株式会社デジタルアート



特定非営利活動法人 木材・合板博物館
<http://www.woodmuseum.jp>

木材合板 で 検索

赤ちゃんからお年寄りまで 一緒に遊べるビッグで楽しい おもちゃ箱



おもちゃ箱の中は「木」がいっぱい! 木育のスタートするひろば

—ここは、小学校の校舎ですよね

昭和モダンの面影を残す校舎

旧四谷第四小学校の校舎は昭和11年（1936年）竣工で、関東大震災の教訓から防災に強い校舎として設計されました。片側廊下、片側教室という造りは、全員が5分以内に校舎外に避難できることを考えた仕様で、その後の学校建築の基本形となりました。当時は復興小学校と呼ばれていました。この玄関ビロティにある3本の太い柱など、70数年前とは思えないモダンな造りが地域から愛されて、廃校になる前から歴史的建造物として遺したいと、地域の人たちが区にはたらきかけていました。今ここは、地域住民ボランティアなどを中心にした「地域ひろば」、NPO CCAAアートプラザ（市民の芸術活動推進委員会）、東京おもちゃ美術館の3団体で協同活用、

—階段をのぼった2階が受付。館名のフレートに並んで、名前が記された積み木が壁一杯に嵌め込まれています。タレントさんの名前もみえます。

一口1万円、「一口館長」という寄付を呼びかけて最初の改築費用を賄いました。これは寄付して下さった一口館長さんたちの名前です。私たちはNPO団体なので寄付金とボランティアで運営されています。館内の赤いエプロンのスタッフは、みなさん「おもちゃ学芸員」と呼んでいるボランティアさんで現在220名余の方が登録されています。今日も14～15人の方がスタッフとして来てくださっています。この力なしに私たちの活動は1日たりともなりたちません。



「おもちゃ」とは何でしょうか？一言では答えきれそうもない難問ですが、とにかくそれは遊ぶもの、楽しいものには違いありません。

新宿区四谷四丁目に、認定NPO法人日本グッド・トイ委員会が運営する「東京おもちゃ美術館」があります。同委員会は良質なおもちゃを「グッドトイ」に選定する事業を行っています。その収蔵品数は約15万点、そのうち5,000点のおもちゃが常時展示されています。美術館とはいいながら見るだけでなく、実際に触って、遊べて、作って、学べるミュージアムです。2008年4月に中野区から移転、再開しました。建物は、旧新宿区立四谷第四小学校の校舎が利用されています。

夏休みが始まったばかりの7月、東京おもちゃ美術館を訪ねました。赤ちゃん木育事業部の石井今日子さんが、館内を案内して下さいました。

ミニユージアムショップ
日本のおもちゃで遊んでもらいたい

かつては個人経営のおもちゃ専門店があつたものですが、今は「まちのおもちゃ屋」さんを見かけることが少くなりました。みなさんがおもちゃを求める店は、外国資本の大型量販店や家電量販店のゲームソフトのコーナーなどではないかと 思います。そのおよそ9割は外国製品。アメリカ、中国、東南アジア製など、あとは趣味のいいママたちがヨーロッパ製を求めるとか。ここでは（写真④）、日本で作られたおもちゃを中心に行展示販売しています。少子化のなかでせつかく日本に生まれた大切な子たちが、日本のおもちゃを知らないで育つのはあまりに残念です。もっと日本のおもちゃで遊んで育つてもらいたいというこだわりがあります。

グッド・トイ展示室 いいおもちゃのキーワード、 「コミュニケーション」

このグッド・トイの部屋（写真⑦）は、日本グッド・トイ委員会が選定した良質のおもちゃを展示しており、今年の「グッド・トイ2013」も展示しています。ところで、グッド・トイを直訳すると「いいおもちゃ」ですが、いいおもちゃの基準は何だとお思いになりますか？人それぞれの答えがあつて、一言では括りきれない難問ですよね。

私たちは、あえてその基準を「コミュニケーション」というキーワードに求めています。初めて出合った人同士、違う世代の人同士、外国人同士、障害を持つ人と健常者の人同士。仲良しになれる、話が弾む。そんな人と人を繋げるモノとして、おもちゃを捉えてみたいと考えています。

これは今年選定されたグッド・トイのコーナーです。この「森のどうぶつみき」（写真⑥、本誌表紙写真）は、「グッド・トイ2013」とならん



館内を見て回った後、法人運営部部長の山田心さん（右）、赤ちゃん木育事業部の石井今日子さん（左）のお二人に、日本グッド・トイ委員会、東京おもちゃ美術館の事業、ウッドスタートプロジェクトについてお話を伺いました

で「林野庁長官賞」を受賞したおもちゃです。岐阜県のオーケヅイレッジというメーカーさんが作った積み木です。樹種は日本産の5種が使われ樹種名も刻まれています。香りや色、手触りを感じることができます。どうぶつたちはそれぞれがいや親子になつていて、積み木だけでなく、動物園を作る遊びもできます。

日本グッド・トイ委員会は、人材育成講座として「おもちゃコンサルタント」養成講座を事業の一つとして開講してきました。そこで生まれたおもちゃコンサルタントが全国に5千人います。その方々はそれぞれ保育園や、介護の現場、病院などのフィールドで活躍されていますが、その人たちが自身のフィールドで役に立つたり、いいと思えたものを、グッド・トイとして推薦し、それを全国での投票や体験会を経て、その年のグッド・トイが選定される仕組みになっています。どちらかというと、「本屋大賞」と似た選考プロセスですね。



美術館正門前（上）美術館入口（下）

- ①廊下の展示
②親子で学ぶおもちゃくらぶ
③赤いエプロンのおもちゃ学芸員のお姉さんが教えてくれます
④ゲームの部屋
⑤速さと判断力が問われるサッカーゲーム
⑥ここではおもちゃ学芸員さんが遊び方を教えてくれる。リタイヤしたお父さん、おじいさんも活躍する場



ゲームの部屋

おもちゃやこつばつ

いま、小学生の子が遊ぶおもちゃが少ないようになります。圧倒的なのはテレビゲームやタブレットを介したデジタルゲームソフトが主流で、それはコミュニケーションの要素に乏しい。そんな中で、ボードゲームが見直されています。私たちが子どもの頃には、野球盤ゲームやボーリングゲームなど、一世を風靡するボードゲームが流行したものですから。



おもちゃやこつばつ

おもちゃ学芸員は、それぞれ得意の分野をお持ちです。自然物からいろんなものを作ったり、木工でガラガラを作ったり、手品を作ったり……この工房（写真②）は、その作り方を皆さんに教える教室です。親子でおもちゃづくりを楽しんでいただけます。今日のテーマは風ぐるまの作り方です。

おもちゃやこつばつ

要は、現在は国内では減少傾向で、いろいろなモノを作つて再起をかけて頑張つてらつしやいます。このおもちゃは実際にそろばん工場の工程の一つで、私どもの館長が遊びのようで面白いと言つたことがきっかけとなつて製作されることになりました。おもちゃです。

この教室を美術館に改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

この教室を改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

この教室を改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

この教室を改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

この教室を改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

この教室を改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

この教室を改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。



- ①廊下の展示
②企画展
③赤いエプロンのおもちゃ学芸員のお姉さんが教えてくれます
④ゲームの部屋
⑤ここは子供たちに大人気の場所。今は夏休みで、大学生や高校生のボランティアさんにも手伝ってもらっています。北海道産広葉樹、針葉樹の20000個のボールのなかで思い切り、泳ぐ?浸かる?遊ぶ?
⑥おもちゃのもりでは、靴を脱いでくつろげます
⑦特大の播州そろばん
⑧そろばん玉のボールからそろばんをくい上げて、玉を通す工程からできた遊び



企画展示室

健やかであれという祈り

今年のグッド・トイセレクションには木製のおもちゃが多いですね。おもやは木製品だけとは限りません。樹脂製もあれば、昔懐かしい布製もあります。私たちも木製のみを推しているわけではありません。でも、木のおもちゃに人気があるのはなぜでしょうか。これも難問ですね。一言では言い切れません(笑)。

郷土玩具・人形

ここは、そのときどきの企画展示を行つてている部屋で、今は郷土玩具、主に人形を展示しています。これらは、小泉正直さんという方の所蔵コレクション（写真①②）で、古い郷土玩具にもかかわらず、ひじょうに保存状態が良いので大変に美しい状態で鑑賞いただけます。多くは80年以上前のもので現在は作られていないものがほとんどです。

このお人形の名前は「奉公（ほうこう）さん（写真③）」、香川県の高松張子（たかまつはりこ）です。高松張子には、「鯛持ち戎（たいもちえびす）」、獅子頭、張子虎など百種類ぐらいあります。「奉公さん」はその代表格です。「おマキ」という娘が奉公先の病気のお嬢さんの身代わりとなつて自分に病をうつして世を去つた」という口伝があり、奉公さんは嫁入り人形、子どもの病気を治す人形として重宝されました。乳児や幼児、子どもが病を得て早く亡くなることが多かつた時代、子どもたちの健やかな成長は親の切実な願いであり、祈りでもありました。そんな愛しみの心が、人形の愛らしさを通して伝わってきます。

このお人形（写真④）はよくあるモチーフの一つ「饅頭食い」で、各地に伝わっています。両手に二つに割つたお饅頭を持っています。今でも、お子さんに「お父さんとお母さんのどちらが最も愛らしくて美味しい」ときどきとも強い小学生も誕生しています。

この教室を改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

おもちゃのもり

職人たちの創意が集まつた部屋

最初は私たちも「木のおもちゃ」に特別な思い入れがあつたわけではありません。日本の「木のおもちゃ」文化も盛り上げたいという意図でした。ところが、ここがご覧のように子供たちに大人気の部屋になりました。「木の砂場（写真⑤）」は子供たちの一番のお気に入りです。ナラ、イチイなどの北海道産の広葉樹、針葉樹で作った2万個のボールが入っています。室内は九州産のヒノキを敷き詰めていますので、ここでは靴を脱いでお座りしていただいています。（写真⑥）

この場所は、全国のおもちゃ職人さんのネットワークがあり実現した部屋で、各地の地域材の魅力も感じて楽しんでいただける部屋になりました。これは兵庫県小野市が産地の播州そろばん作り体验遊具。（写真⑧）ご存じのようにそろばんの需

要は、現在は国内では減少傾向で、いろいろなモノを作つて再起をかけて頑張つてらつしやいます。このおもちゃは実際にそろばん工場の工程の一つで、私どもの館長が遊びのようで面白いと言つたことがきっかけとなつて製作されることになりました。おもちゃです。

この教室を改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作らうと「わらはんど」というグレープを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

この場所は、全国のおもちゃ職人さんのネットワークがあり実現した部屋で、各地の地域材の魅力も感じて楽しんでいただける部屋になりました。これは兵庫県小野市が産地の播州そろばん作り体验遊具。（写真⑧）ご存じのようにそろばんの需

このゲームの部屋（写真④）にはさまざまなおもちゃを置いています。おもちゃ学芸員は作り方も教えますが、遊び方も教えます。囲碁、将棋に始まってパックギヤモン、オセロとか、この館ではその道のプロの人が教えにきてくれますので（写真⑥）、ときどきとても強い小学生も誕生しています。

このサッカーゲーム（写真⑤）は、テーブルサッカーアー協会日本女子代表選手のO.L.さんでもある方が毎月教えにきててくれています。めちゃくちゃ強いです。目にも見えないぐらいいの速さでボールを動かします。そんな人に教えてもらうと子どもたちも夢中です。オセロのチャンピオンの学芸員さんもいますし、囲碁、将棋の女流棋士の方も教えてもらいたい。その道の学芸員さんたちが教えにきます。すでに仕事を引退された学芸員の方も教えにきます。すでに仕事を引退された学芸員の方も活躍いただいています。

ゲームは勝つたり負けたりの遊びです。今日は負けても明日は勝てるかもしれない。今の子はそうした遊びに尻込みする子もいます。小学校も高学年になると、囲碁や将棋など偶然性によらないものに挑戦できるようになります。負けて悔しいこともあります。負けたときも、そうした経験を積みながら成長してもらいたい。その道の学芸員さんたちはそうした経験をフォローできるプロの人たちでもあります。心が成長していく段階でここでは大切にしたいと思っています。

このゲームの部屋（写真④）にはさまざまなおもちゃを置いています。おもちゃ学芸員は作り方も教えますが、遊び方も教えます。囲碁、将棋に始まってパックギヤモン、オセロとか、この館ではその道のプロの人が教えにきてくれますので（写真⑥）、ときどきとても強い小学生も誕生しています。

このサッカーアー協会日本女子代表選手のO.L.さんでもある方が毎月教えにきててくれています。めちゃくちゃ強いです。目にも見えないぐらいいの速さでボールを動かします。そんな人に教えてもらうと子どもたちも夢中です。オセロのチャンピオンの学芸員さんもいますし、囲碁、将棋の女流棋士の方も教えてもらいたい。その道の学芸員さんたちが教えにきます。すでに仕事を引退された学芸員の方も教えにきます。すでに仕事を引退された学芸員の方も活躍いただいています。

ゲームは勝つたり負けたりの遊びです。今日は負けても明日は勝てるかもしれない。今の子はそうした遊びに尻込みする子もいます。小学校も高学年になると、囲碁や将棋など偶然性によらないものに挑戦できるようになります。負けて悔しいこともあります。負けたときも、そうした経験を積みながら成長してもらいたい。その道の学芸員さんたちはそうした経験をフォローできるプロの人たちでもあります。心が成長していく段階でここでは大切にしたいと思っています。

- ①廊下の展示
②企画展
③赤いエプロンのおもちゃ学芸員のお姉さんが教えてくれます
④ゲームの部屋
⑤ここは子供たちに大人気の場所。今は夏休みで、大学生や高校生のボランティアさんにも手伝ってもらっています。北海道産広葉樹、針葉樹の20000個のボールのなかで思い切り、泳ぐ?浸かる?遊ぶ?
⑥おもちゃのもりでは、靴を脱いでくつろげます
⑦特大の播州そろばん
⑧そろばん玉のボールからそろばんをくい上げて、玉を通す工程からできた遊び

- ①とんがったものはどこにもない、赤ちゃん木育ひろば。ここでは、お母さんたちもリラックス
- ②有馬晋平氏作のスギコダマのトンネル。赤ちゃんはここをくぐるのが大好き
- ③④ママと一緒に
- ⑤スギのベンチ
- ⑥積み木は樹種ごとに整理
- ⑦京都の北山杉でできた木のおもちゃ



※木育
「木育」とは、木と関わることで、木に対する親しみや理解を深めることにより木を生活に取り入れたり、自ら森作りに貢献する人の育成を目指す活動です。(農林水産省広報誌 off 2012年10月号特集「[「木づかい」のスマイル]」)

赤ちゃん木育ひろば スギの柔らかさに包まれる部屋

この部屋（写真①）をどんな材で作るのがいいか、あらかじめ大工さんや林業関係者の方にリサーチしてみる、皆さんの示唆をもとに、この部屋をつくる

れたことで赤ちゃんを連れてお父さんたちもここに遊びに来るようになり、運営にも携わってくれることになりました。このことは子育て支援とう見方からもとても有効だったと思います。

あらかじめ大工さんや林業関係の方にリサーチ
したところ、皆さん、赤ちゃんだったらスギが柔
らかくていいでしようというご意見でした。そこ
でボランティアさんたちと一緒に多摩の斯ギ山に
入つて、そこで森林がいかに放置された状態にあ
るかも学ぶことから部屋作りをスタートさせまし
た。この部屋は各地のスギ材を用いて作られて
います。壁と床には多摩認証材のスギを使つていて
ます。そのことで助成金をいただくこともできました。

東京おもちゃ美術館は常設展示館ですが、この他に、「おもちゃの広場」を各地の子育てサロンに、グッドトイを貸し出し、全国180箇所でおもちゃコンサルタントが開催しています。また「グッドトイキヤラバン」「木育キヤラバン」など移動型おもちゃ美術館も事業として展開しています。そして、今最も力を入れているのが「ウッズス

ギコダマです。今回この部屋を作るにあたって、すばり台とトンネルを特注して作っていただきました。一本の木をくりぬいて作られています。有馬さんはスギをもつとみんなから愛されるようにしたいとおっしゃっています。有馬さんとの出会いがあってこの部屋のコンセプトが具現化しました。ベンチやテーブルは宮崎県産の飴肥^{あわび}スギです。この部屋のオブジェには、この他に九州各地のスギが使われています。

このミニスギコダマは300個あります。有馬さんに作り方を教わってボランティアさんたちの手で、一昨年の夏、7回ワークショップを開催して作つたものです。最初、慣れない手つきで切り出しナイフを使つていた私を見たボランティアのお父さんの一人が、そんな手つきでは見てられないといつて有馬さんに教わりに行つたことがきっかけでした。そんな経過でみんなで作つたこの部屋は、みんなの思いいれもひとしおで、その後のメンテナンスもみんなの手で担われるようになります。「イクジイ」たちのボランティアが生ま

もコラボレーションがスタートしています。無企業とのコラボレーションも進んでいます。無印良品有楽町店の子ども売り場に木育広場を製作しました。全国10店舗に拡大中です。スープーのサミット株は社会貢献として山梨県北都留郡に「サミットの森」の整備支援をしています。この森から出た材で制作した赤ちゃん向けの木のおもちゃ「木育おもちゃセット」を子育て支援施設に寄贈しています。

赤ちゃんからの生涯木育が、全国でスタートし始めています。

毎年1回、全国のおもちゃコンサルタント・本職人が、ここに大集結して「東京おもちゃやまつり」を開催しています。東京おもちゃ美術館の大祭りです。今年は10月19～20日に開催されます。

るようです。その魅力はどこにあるのか。答えはいくつも出てきそうですが、簡単ではありません。人類が生まれたときから、そのそばにあつた生物、木。人にとってそれはとても懐かしいものなのかな。

東京おもちゃや

ないようです。石井さんは、「木」のご縁で木材・

も素敵なことでした。子どもはもちろんおもちゃに夢中ですが、それを見ているお母さんたちもい

いですね、とおっしゃつて下さいました。あなたも東京おもちゃ美術館を訪れてみてはい

繋ぐものとしておもちゃを考えるという、石井さんのお話をあらためて思い出しました。

のなせる技なのかもしません。
おもちゃは木製とばかりは限りません。でも、

卷之三

四谷ひろば
四谷三丁目

易は15:30
」のみ15:30
金)／年末
場合は開館
生以上)

東京おもちゃ美術館

URL : <http://www.goodtoy.org/ttm/index.html>

所在 地 : 〒160-0004
東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内

アクセス : 東京メトロ丸ノ内線「四谷三丁目駅」2番出口
より お子さま連れで徒歩7分

開館時間 : 10:00 ~ 16:00 (入場は15:30まで)
※「赤ちゃん木育ひろば」のみ15:30まで

休館 日 : 木曜日 / 特別休館日
2013/9/9(月) ~ 13(金) / 年末年始
※木曜日が国民の休日の場合は開館

入館 料 : こども 500円
おとな 700円 (中学生以上)
※2歳以下は無料



笑顔を絶やさない石井さん、山田さんのお話はいつも魅力的です



[SYNQA]
「イトーキと Synchronaize(同
調)して進化(シンカ)していく」
という意味を込められている

都心に出現した 新しい交流型の ビジネス空間

レポート!
木の最前線

「木の最前線レポート」は、新しい「木」の時代を創出しようとする意欲的な挑戦をひろく紹介す
る「一ナード」です。今回は、中央区京橋3丁目に建つ「相互館110タワー」1~3階にある、イ
トーキ東京イノベーションセンターSYNQA(シンカ)をお訪ねしました。株式会社イト
ーキは明治23年(1890年)創業の、歴史を誇るオフィス機器メーカーの老舗です。その
イトーキさんが昨年11月、都心に斬新なビジネス空間を誕生させました。今までにない
「木」の空間が出現したと話題を呼んでいます。SYNQAとはどんな空間なのか?
そのコンセプトは? どんな「木」の使われ方なのか?

株式会社イトーキのソリューション開発統括部Ecoソリューション企画推
進部Econifa開発推進室の末宗浩一室長に、この新しいビジネス空間
について教えていただきました。

イトーキ東京イノベーションセンター 『SYNQA』の提案



外光もいっぱいに取り込んだ、開放的な空間
の1階ネットワーキングカフェ。このカフェを含
めて1階フロア全体がFSC森林認証・全体認証
を取得しています。日本では7件目の快挙

都心のオフィスを「木」で満たすという試み

木質感がいっぱいの空間という印象です。

ビジネスの新しいあり方を 提案するオフィス空間

当初のコンセプトは木質化が主目的
ではありました。今は多様な価値観が交差する時代で
す。ビジネススタイルも従来型ではない、新しいあり方や働き方が求め
られています。企業枠にとどまらない人と情報の流れ、新しい知の協業の
場が必要と考えました。その提案がSYNQAです。ここはショールームの要素も兼ねていますが、何よりビジネスの実践空間です。企業枠を超えたプロジェクトの場であり、さまざまなブレイクスルーを可能にするアイデアを具体化する場であり、同時にコミュニケーション空間でもあることをめざしてデザインされました。

海外のオフィスには日本以上に木質化が多い。木質化は、快適なオフィス空間であることの欠かせないバリュ

材の良さが活かされた 製品でなければ――

イトーキのEconifa(エコニア)シリーズは、家具には不向きとされる針葉樹を弊社独自の技術で、よ

り洗練されたデザイン耐久消費財として実用化させ、これをオフィスに供給しようとするものです。オフィスの木質化の追求は、都市での木材利用によるCO₂固定量を増やすことに貢献し、併せて国産資源活用によって森林機能をより促進させるエコソリューションです。

エコニアは、ボリシーのあり方だけにとどまらず、製品そのものの品質が喜ばれるレベルをめざします。真の快適さ=UD(ユニバーサルデザイン)と、地球環境の保全=Eco Design(エコデザイン)とを融合させたコンセプトです。スキ、ヒノキ、カラマツなど地域材の特色を活かし、材の良さが製品価値に活かされた製品を開発する。ボリシーだけでなく、ニティ空間でもあることをめざして評価してもらうことが必要です。私はまだブランド化されていないという状態にあります。地域産材の利用を促進するには、製品を通じて材の良さを評価してもらうことが必要です。私はそのブランド化に、製品づくりと流通を通して貢献したい。それがエコニアという事業の大きな骨子です。

都心のオフィスを 極限まで木質化する

SYNQAは、木質化することによって、どれだけ快適なオフィス空間を実現できるか、という挑戦もあります。

SYNQAは、木質化することによって、どれだけ快適なオフィス空間を実現できるか、という挑戦もあります。



SYNQAは、木質化することによって、どれだけ快適なオフィス空間を実現できるか、という挑戦もあります。

SYNQAは、木質化することによって、どれだけ快適なオフィス空間を実現できるか、という挑戦もあります。

SYNQAは、木質化することによって、どれだけ快適なオフィス空間を実現できるか、という挑戦もあります。



※ FSCプロジェクト認証

FSCプロジェクト認証は、FSCが定めるFSC森林認証制度のうち「建造物」や「製造物」などをプロジェクト案件ごとに認証する仕組み。この認証には「全体認証」と「部分認証」があり、対象範囲内のすべての木質由来の素材がFSCの規格に沿った管理と認められた案件が全体認証で、より取得が難しいとされている。SYNQA1階フロアのFSCプロジェクト認証・全体認証は、世界で46件目、日本国内では7件目(2012年8月現在)、RC建築物のオフィスとしては日本初となる。

カスタマーリレーション戦略企画室の町田年英室長、Econifa開発推進室の田淵陽子さんのお二人に、SYNQAの各フロアを案内していただきました。

1階、WORK CAFEは、利用者や初めての方をお迎えする、「開放的な情報の流入空間」をコンセプトにしています。ギャラリー、サテライトオフィス、ネットワーキングカフェ、キュレーションステージ、ライブラリーアリ

【ネットワーキングカフェ】カバ無垢材のフローリングを敷いた大規模木質空間です。床だけでなく壁、天井、下地材など見えない箇所にも地域材を活用し、柔らかな木質感に囲まれながら、利用者同士が気兼ねなく集えるコミュニケーションスペースをめざしました。用途に応じた自在なレイアウトでご利用いただけます。

【サテライトオフィス】床はもちろん、カウンター、飾り棚、柱巻き、天井に至るまで地域材を活用しています。黒の飾り棚はカラマツを使い、フロアスペースには針葉樹材のラウンジチャア「ツイモ」を配置し、落ち着いた空間を演出しています。プリンターなどのツールがご利用できます。隣接したカフェではドリンクも販売しています。

【ライブラリー】電子書籍と出版書籍を一緒に利用できる書架で、タッチ式モニターから検索ができます。タブレットの貸し出しもしています。ここで活

動するプロジェクトや個人の知識、情報報を「見える化」するスペースです。この1階スペースは、「FSCプロジェクト認証・全体認証」^{*}を取得しています。

2階、TEAM LABはプロジェクトチーム、プロジェクトベースからなる、プレゼンテーションやプロジェクトセミナーに使うフロアです。ベースの一つにEconifa仕様のコア&セルのフレームや基本パーツを組み合わせて使う「アグラム」の床ユニットを置いています。2階にはイトーキ創業からの製品を展示したヒストリーホールも併設されています。

3階フロア、SYNC OFFICEは、イトーキのオフィスです。ここは社員自ら、SYNQAで得られた知見や、開発ソースをマッチングして新しいソリューションを生み出す実証実験の場です。フロア全体をぐるりと通る「スギの回廊」もその一つです。内装木材の使い方の通念として、スギは床材には不適とされていますが、ここではアリューションを生まれました。

（未宗室長にお聞きしました。廊下の床材にあってスギ材を使った発想について教えてください。）

これが実証実験の一つです。たしかに、これまでの内装木材の使い方にスギを廊下に使うことは不適とされてきましたが、果してどうでしょうか?

使うほどに、靴跡やヒールの跡がつい

イトーキ東京イノベーションセンター SYNQA

所在地：東京都中央区京橋3-7-1 相互館110タワー1F～3F
〒104-0031

面積：延床面積 3,392m²

仕様：相互館110タワースペック／S造(柱CFT)、RC造、免震構造
・免震構造によるSランク(最高グレード)の耐震性能
・CASBEEによるAランク相当の環境性能

(入居面積)

1階 外部交流スペース サテライトオフィスカフェ、プランディングギャラリーなど (584m²)

2階 共創型事業スペース セミナールーム、プロジェクトチーム、プロジェクトベース、シアターなど (1,389m²)

3階 オフィス イトーキ京橋オフィス (1,419m²)



て床面が凹凸状に変化してきていますが、社員の評判は悪くはありません。「木」の柔らかさを足下に感じながら歩くことは不快でしょうか。目で見てもむしる楽しくはありませんか？

木材は表面に節が見えます。衝撃を与えるとへこみます。しかし、それが木材を内装材にこれまで求められてきた品質は、寸法が狂わない、傷つきにくい、経年変化しにくいといった要素でした。木材を使うことは木材の良さを認め、その性質を活かすことがあります。経年変化も木材の妙味ではないでしょうか。SYNQAには全国各地の地域材が使用されています。地方の林業関係の方は、頻繁にここを訪れて、その経年変化もチェックしていただけます。

活動する人間を包む素材に革命をもたらしたい。SYNQAが、ここをイノベーションセンターと自称するのには、これまでにない発想と価値観を生み出し、ここを常に新しい情報技術の発信地にしたいからです。



田淵さんにサルタスを紹介していただきました。ヒノキの集成材を使い、木が林立しているような雰囲気の空間。スペースの大きさに合わせて自在な組み立てが可能

行政はもつとスピードに手を打つべきだつたと思います。日本の木材需要は高度経済成長期を通じて、安い外材を使うようになりました。農産物については保護関税を課して自由化の波からガードし続けてきたのに、林業に関しては木材輸入へのガードは緩すぎたと思いますね。結果、日本の山林は担い手を失って、荒れ放題となりました。今、林道整備などに着手していますが、もつと早くにすべきことでした。

今、ハウスメーカーの勢いが伸びています。住宅需要が大きくなることは歓迎ですが、そんななかで、地場の工務店さんが衰退しています。そこを何とか手助けできることはないかと、模索中です。ハウスメーカーさんは、限りなく木材を使わない方向に進んでいく可能性も考えられます。ハウスメーカーさんも私どもにとつて材をお納する大切なお客様ですが、今の若い施主さんは、モデルハウスを見て家の購入を計画します。そこにもつと木材活用をした住宅のあり方を提案していきたい。工務店さんに木材屋との提携をお奨めするとか、地場の関係者を集めた講習会を行うとか、私どもも提案型の営業力を養い、工務店さんも施主さんに提案できるような仕組みを作りたいと思っています。

若い設計士さんは木についての知識、情報が乏しいので、ここにどうやって情報提供できるか。私どもには、どこにどういう材を使えばいいかというアドバイスはあります。住宅需要が大きくなることは歓迎ですが、そんななかで、地場の工務店さんが衰退しています。そこを何とか手助けできることはないかと、模索中です。ハウスメーカーさんは、限りなく木材を使わない方向に進んでいく可能性も考えられます。ハウスメーカーさんも私どもにとつて材をお納する大切なお客様ですが、今の若い施主さんは、モデルハウスを見て家の購入を計画します。そこにもつと木材活用をした住宅のあり方を提案していきたい。工務店さんに木材屋との提携をお奨めするとか、地場の関係者を集めた講習会を行うとか、私どもも提案型の営業力を養い、工務店さんも施主さんに提案できるような仕組みを作りたいと思っています。

若い設計士さんは木についての知識、情報が乏しいので、ここにどうやって情報提供できるか。私どもには、どこにどういう材を使えばいいかというアドバイスはあります。住宅需要が大きくなることは歓迎ですが、そんななかで、地場の工務店さんが衰退しています。そこを何とか手助けできることはないかと、模索中です。ハウスメーカーさんは、限りなく木材を使わない方向に進んでいく可能性も考えられます。ハウスメーカーさんも私どもにとつて材をお納する大切なお客様ですが、今の若い施主さんは、モデルハウスを見て家の購入を計画します。そこにもつと木材活用をした住宅のあり方を提案していきたい。工務店さんに木材屋との提携をお奨めするとか、地場の関係者を集めた講習会を行うとか、私どもも提案型の営業力を養い、工務店さんも施主さんに提案できるような仕組みを作りたいと思っています。

木材会館大ホールを会場に くらしと森林・木材の放射能をめぐるテーマで 公開シンポジウムを開催

7月18日（木）、新木場駅前の木材会館6階大ホールを会場に、（独）森林総合研究所主催による公開シンポジウム

「私たちのくらしと森林・木材の放射能－森林総研が解き明かすその実態と今後－」が開催され、7つの講演（研究発表）とパネルディスカッションが行われました。

このシンポジウムは、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所の放射能事故以来、森林総研に寄せられた放射能汚染に関するさまざまな不安や質問に対し、研究所の調査結果をひろく紹介し、最新情報の共有、今後取り組むべき課題を議論する目的で開催されました。会場は事前申込者の約300人の出席者で一杯となりました。（以下、抄録で紹介。文責筆者）

森林総研の調査結果をばばひろく紹介

講演のはじめは、高橋正通研究コードイネーツが原発事故後の調査研究のあらまし、各発表の要点紹介を行い、放射能汚染が森林の多面的な機能に深刻な影響

イスは出来ますが、どんな木の使い方がが、私に言わせてもらえば、あれは遅すぎるのではないかと提案する発想力が足りません。ここに若い人のアイディアの力を借りたいですね。

銘木に限らず今、木材流通は構造不況業種です。銘木の良さを伝えることはこれまでも続けていますけど、銘木にはござりません。それよりも木材流通のパイプをもつと太くしていくことに企業の使命を感じています。商品アイテムをもっと多様なものにし、木材利用の可能性を広げることが必要です。そのためには銘木屋らしからぬと思われるような業態変化も何ら厭いません。今年JKホールディングスのグループに入りました。今度のJKフェアには銘木は出展しません。新しいアイテムを準備中です。旧来の、まだまだ売れるという生き残りの仕方ではなく、売る方法をアグレッシブに追求していく、木材需要の新しいかたちをつくることが私たちの課題です。

銘木オフィス。

受付で、お二人とも恥ずかしがってなかなかカメラを向いてもらえない瞬間。

経営方針

1. 株式会社銘林は、より良い製品とサービスを提供する事に努力し、需要者の大いなる満足を得る事を念願する。
2. 株式会社銘林は、徹底的に能力主義をとり、各人の能力を最大限に発揮し、高能率・高賃金を実現する。
3. 株式会社銘林は、積極主義をとり、独創と努力で『銘林ブランド』を確立し、業界をリードする。
4. 株式会社銘林は、経営を内部公開し、社員に利益の配分を行い、社員に希望と信頼の持てる会社とする。
5. 株式会社銘林は、役員も社員も共に自分の責任と義務を果たす事に努力し、上意下達を徹底し、協調の精神に徹底する事により、会社を明るい働き易い職場とする。

各部署のオフィスに張り出されている経営方針。毎朝、朝礼時に社員全員で唱和します

株式会社銘林さんは、木材・合板博物館のすぐ隣にあります。取材に伺うまで、その名から想像するとおりの伝統的な銘木屋さんのイメージを抱いていました。森山代表取締役は、古い木材流通の体質を脱ぎ捨て、新しい木材需要を造り出していくことが、今は求められている。そのためには「銘木は守り続けるが、銘木にはござりません」、「銘木屋らしからぬ」業態変化にも積極的にチャレンジしていく。国産材利用の促進を後押しする法律が出来たが、それはほんの少しの追い風にすぎない。構造不況業種である木材流通をつくりかえるのは、木材屋自身の仕事だと言います。新しい木の時代の息吹は、それを先取りする人たちのところから吹き始めているように思いました。

（博物館スタッフ 長谷川麻紀）

《後記》

株式会社銘林さんは、木材・合板博物館のすぐ隣にあります。取材に伺うまで、その名から想像するとおりの伝統的な銘木屋さんのイメージを抱いていました。森山代表取締役は、古い木材流通の体質を脱ぎ捨て、新しい木材需要を造り出していくことが、今は求められている。そのためには「銘木は守り続けるが、銘木にはござりません」、「銘木屋らしからぬ」業態変化にも積極的にチャレンジしていく。国産材利用の促進を後押しする法律が出来たが、それはほんの少しの追い風にすぎない。構造不況業種である木材流通をつくりかえるのは、木材屋自身の仕事だと言います。新しい木の時代の息吹は、それを先取りする人たちのところから吹き始めているように思いました。

株式会社 銘林
〒136-8605 東京都江東区新木場1-7-6
TEL(総務部) 03-3521-3140
(営業部) 03-3521-3141
<http://meirin-shinkiba.com/>



パネラーに講演者も加わるかたちで行われたパネルディスカッション

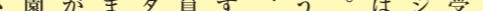
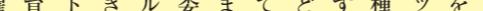
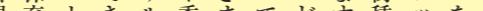
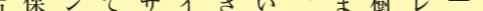
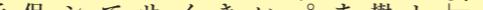
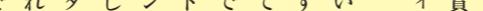
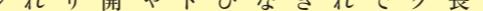
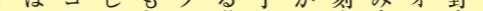
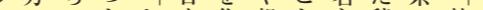
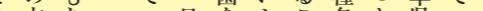
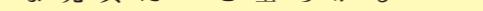
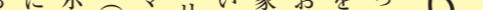
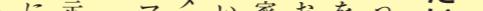
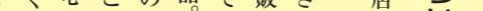
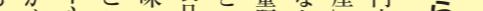
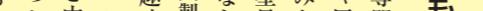
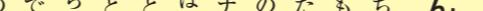
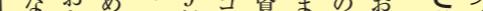
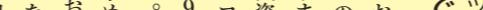
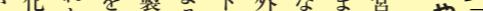
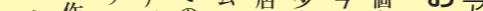
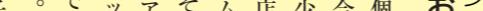
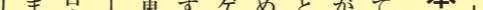
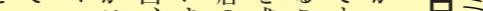
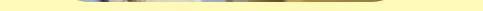


出席者で埋め尽くされた会場



福島県の木材業界による製材品の自主検査について報告する、福島県木材協同組合連合会専務理事の宗形芳明氏

赤ちゃんからお年寄りまで 一緒に遊べるビッグで楽しい おもちゃ箱





②企画展
高松張子、素朴な表情が懐かしい奉公さんのいろいろ。
饅頭を二つに割り、両手にもっている「饅頭食い」
ここは子供たちに大人気の場所。今は夏休みで、大学生や高校生のボランティアさんにも手伝ってもらっています。北海道産広葉樹、針葉樹の20000個のボールのなかで思い切り、泳ぐ? 漫かる? 遊ぶ
おもちゃのものでは、靴を脱いでくつろげます
特大の播州そろばん
そろばん玉のプールからそろばんをすくい上げて、玉を通す工程からできた遊び

企画展示室

おもちゃは木製品だけとは限りません。樹脂製もあれば、昔懐かしい布製もあります。私たちも木製のみを推しているわけではありません。でも、木のおもちゃに人気があるのはなぜでしょうか。これも難問ですね。一言では言いたくありません(笑)。

ここは、そのときどきの企画展示を行っている部屋で、今は郷土玩具、主に人形を展示しています。これらは、小泉正直さんという方の所蔵コレクション（写真①②）で、古い郷土玩具にもかかわらず、ひじょうに保存状態が良いので大変に美しい状態で鑑賞いただけますが、多くは80年以上前のもので現在は作られていないものがほとんどです。

このお人形の名前は「奉公（ほうこう）さん（写真③）」、香川県の高松張子（たかまつはりこ）です。高松張子には、鯛持ち戎（たいもちえびす）、獅子頭、張子虎など百種類ぐらいあります。『奉公さん』はその代表格です。「おマキという娘が奉公先の病気のお嬢さんの身代わりとなつて自分に病をうつして世を去つた』という口伝があり、奉公さんは嫁入り人形、子どもの病気を治す人形として重宝されました。乳児や幼児、子どもが病を得て早く亡くなることが多かつた時代、子どもの健やかな成長は親の切実な願いであり、祈りでもありました。そんな愛しみの心が、人形の愛らしさを通して伝わってきます。

このお人形（写真④）はよくあるモチーフの一つ「饅頭食い」で、各地に伝わっています。両手に二つに割つたお饅頭を持っていますね。今まで、お子さんに「お父さんとお母さんのどちらが

要は、現在は国内では減少傾向で、いろいろなモノを作つて再起をかけて頑張つてらつしやいます。このおもちゃは実際にそろばん工場の工程の一つで、私どもの館長が遊びのようで面白いと言つたことがきっかけとなつて製作されることになつたおもちゃです。

この教室を美術館に改修するにあたつて、耐震性の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかなわなかつたので、小屋の造作物を教室の中を作ることにしました。青森県の大工さん、建具屋さん、漆職人さんなど職人たちが集まつて、みんなでおもちゃを作ろうと「わらはんど」というグループを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

女は、現在は国内では減少傾向で、いろいろなモノを作つて再起をかけて頑張つてらつしやいます。このおもちゃは実際にそろばん工場の工程のつで、私どもの館長が遊びのようで面白いと言つたことがきっかけとなつて製作されることになりましたおもちゃです。

この教室を美術館に改修するにあたつて、耐震の問題から校舎の梁や柱に手を加えるのはかながなかつたので、小屋の造作物を教室の中に作ることにしました。青森県の大工さん 建具屋さん 保職人さんなど職人さんたちが集まつて、みんなおもちゃを作ろうと「わらはんど」というグループを立ち上げました。これらの小屋はわらはんどさんが作つてくれたものです。わらはんどは青森の言葉で子どもの意、ハンドに手という意味も込めています。

おもちゃや学芸員は、それぞれに得意の分野をお持ちです。自然物からいろいろなものを作ったり、木工でガラガラを作ったり、手品を作ったり…この工房（写真②）は、その作り方を皆さんに教える教室です。親子でおもちゃづくりを楽しんでいただけます。今日のテーマは風ぐるまの作り方です。

ゲームの部屋
こころの成長を支える、人とおもちゃ

いま、小学生の子が遊ぶおもちゃが少ないよう
に思います。圧倒的なのはテレビゲームやタブレ
ットを介したデジタルゲームソフトが主流で、そ
れはコミュニケーションの要素に乏しい。そんな
中で、ボーリングゲームが見直されてきています。私
たちが子どもの頃には、野球盤ゲームやボーリン
グゲームなど、一世を風靡するボーリングゲームが流
行したもののですけど。



おもちゃのもり 職人たちの創意が集まつた部屋

おもちゃのもり
職人たちの創意が集まつた部屋

おもちゃのもり
職人さんたちの創意が集まつた部屋

最初は私たちも「木のおもちゃ」に特別な思い入れがあったわけではありません。日本の「木のおもちゃ」文化も盛り上げたいという意図でした。ところが、ここがご覧のように子供たちに大人気の部屋になりました。「木の砂場」(写真⑤)は子供たちの一一番のお気に入りです。ナラ、イチイなどの北海道産の広葉樹、針葉樹で作った2万個のボールが入っています。室内は九州産のヒノキを敷き詰めていますので、ここでは靴を脱いでお楽しみいただいています。(写真⑥)

この場所は、全国のおもちゃ職人さんとのネットワークがあり実現した部屋で、各地の地域材の魅力も感じて楽しんでいただける部屋になりました。これは兵庫県小野市が産地の播州そろばん作り本舗達(写真⑧)ご存じようこそらばんの書

このゲームの部屋（写真④）にはさまざまなおもちゃや学芸員は作りますが、遊び方も教えます。囲碁、将棋に始まってバッックギャモン、オセロとか、この館ではその道のプロの人が教えにきますので（写真⑥）、ときどきとても強い小学生も誕生していますよ。

このサッカーゲーム（写真⑤）は、テーブルサッカー協会日本女子代表選手のO.Ishidaさんでもある方が毎月教えにきてくれています。めちゃくちゃ強いですよ、目にも見えないぐらいの速さでボールを動かします。そんな人に教えてもらうと子どもたちも夢中です。オセロのチャンピオンの学芸員さんもいますし、囲碁、将棋の女流棋士の方も教えにきます。すでに仕事を引退された学芸員の方も活躍いただいています。

ゲームは勝つたり負けたりの遊びです。今日は負けても明日は勝てるかも知れない。今の子はそ

ケーラムは勝つたり負けたりの遊びです。今日は負けても明日は勝てるかも知れない。今の子はそうした遊びに尻込みする子もいます。小学校も高学年になると、囲碁や将棋など偶然性によらないものに挑戦できるようになり、勝敗の意味を自分で考えるようになります。負けて悔しいことも勝つてうれしいときも、そうした経験を積みながら成長してもらいたい。その道の学芸員さんたちはそうした経験をフォローできるプロの人たちでもあります。心が成長していく段階をここでは大切にしたいと思っています。

好き？」などと聞かれた方が困ってしまう、意地の悪い質問をすることってありますよね、でもこの子はとても賢くて、二つに割ったお饅頭はどうやらも美味しくて、どちらがどっちなんて言えませんと表現しています。七五三はそれまで子どもが無事に育つたことを祝うものだつたとも言われますが、無事に育つてくれたら今度は賢い子に育つてもらいたいという、親のきりのない（笑）希望も表しています。人形笛には、子どもが食べ物を喉に詰まらせて死なないように、笛を吹くことで

- ①とんがったものはどこにもない、赤ちゃん木育ひろば。ここでは、お母さんたちもリラックス
- ②有馬晋平氏作のスギコダマのトンネル。赤ちゃんはここをくぐるのが大好き
- ③④ママと一緒に
- ⑤スギのベンチ
- ⑥積み木は樹種ごとに整理
- ⑦京都の北山杉でできた木のおもちゃ



※木育
「木育」とは、木と関わることで、木に対する親しみや理解を深めることにより木を生活に取り入れたり、自ら森作りに貢献する人の育成を目指す活動です。(農林水産省広報誌 off 2012年10月号特集「[「木づかい」のスマイル]」)

赤ちゃん木育ひろば
スギの柔らかさに包まれる部屋

この部屋（写真①）をどんな材で作るのがいいか、あらかじめ大工さんや林業関係者の方にリサーチしてみる、皆さんの示唆をもとに、この部屋をつくる

う見方からもとても有効だったと思います。

あらかじめ大工さんや林業関係の方にリサーチ
したところ、皆さん、赤ちゃんだったらスギが柔
らかくていいでしようというご意見でした。そこ
でボランティアさんたちと一緒に多摩の斯ギ山に
入つて、そこで森林がいかに放置された状態にあ
るかも学ぶことから部屋作りをスタートさせまし
た。この部屋は各地のスギ材を用いて作られて
います。壁と床には多摩認証材のスギを使つていて
ます。そのことで助成金をいただくこともできました。

東京おもちゃや美術館は常設展示館ですが、この他に、「おもちゃの広場」を各地の子育てサロンに、グッドトイを貸し出し、全国180箇所でおもちゃコンサルタントが開催しています。また、「グッドトイキヤラバン」「木育キヤラバン」など移動型おもちゃや美術館も事業として展開しています。

そして、今最も力を入れているのが「ウッドス

大分県の造形作家、有馬晋平さんのオブジェ、スギコダマです。今回この部屋を作るにあたって、すべり台とトンネルを特注して作っていただきまし
た。一本の木をくりぬいて作られています。有馬さんはスギをもつとみんなから愛されるように
したいとおっしゃっています。有馬さんとの出会い
が、あってこの部屋のコンセプトが具現化しまし
た。ベンチやテーブルは宮崎県産の飴肥^{あめび}スギです。
この部屋のオブジェには、この他に九州各地のス
ギが使われています。
このミニスギコダマは300個あります。有馬

さんに作り方を教わってボランティアさんたちの手で、一昨年の夏、7回ワーキショップを開催して作つたものです。最初、慣れない手つきで切り出しナイフを使つていた私を見たボランティアのお父さんの一人が、そんな手つきでは見てられないといって有馬さんに教わりに行つたことがきっかけでした。そんな経過でみんなで作つたこの部屋は、みんなの思いいれもひとしおで、その後のメンテナンスもみんなの手で担われるようになります。」「イクジイ」たちのボランティアが生ま

毎年1回、全国のおもちゃコンサルタント・木工職人が、ここに大集結して「東京おもちゃまつり」を開催しています。東京おもちゃ美術館の大祭りです。今年は10月19～20日に開催されます。

【取材を終えて】

との一つは、子連れのお母さんたちの表情がとても素敵なことでした。子どもはもちろんおもちゃでもいい笑顔をされていました。そこにはおじいちゃん、おばあちゃんも、お父さんもいました。人と人を繋ぐものとしておもちゃを考えるという、石井さんのお話をあらためて思い出しました。

NPO団体による運営ということだけでなく、おもちゃや美術館はたくさんの人の善意と創意で支えられています。それも、おもちゃというテーマのなせる技なのかもしれません。

おもちゃは木製とばかりは限りません。でも、「木のおもちゃ」には時代や世代を越えた力がある



「木のおもちゃ」には時代や世代を越えた力がある。おもちゃや美術館はたくさんの人の善意と創意で支えられています。それも、おもちゃというテーマのなせる技なのかもしれません。おもちゃは木製とばかりは限りません。でも、「木のおもちゃ」による運営団体による運営ということだけでなく、おもちゃや美術館はたくさんの人の善意と創意で支えられています。それも、おもちゃというテーマのなせる技なのかもしれません。



るようです。その魅力はどこにあるのか。答えはいくつも出てきそうですが、簡単ではありません。人類が生まれたときから、そのそばにあった生物、木。人にとつてそれはとても懐かしいものなのかもしれません。そして「木育」とはそもそも「木」の知識を増やしたり普及したりすることだけではないようです。石井さんは、「木」のご縁で木材・合板博物館さんとも何か一緒にことが出来たらいいですね、とおっしゃって下さいました。

あなたも東京おもちや美術館を訪れてみてはいいかがでしようか。さあ、木育のスタートです。

企業とのコラボレーションも進んでいます。無印良品有楽町店の子ども売り場に木育広場を製作しました。全国10店舗に拡大中です。スーパーのサミット株は社会貢献として山梨県北都留郡に「サミットの森」の整備支援をしています。この森から出た材で制作した赤ちゃん向けの木のおもちゃや「木育おもちやセット」を子育て支援施設に寄贈しています。

赤ちゃんからの生涯木育が、全国でスタートし始めています。

東京おもちゃや美術館は常設展示館ですが、この他に、「おもちゃの広場」を各地の子育てサロンに、グッドトイを貸し出し、全国180箇所でおもちゃコンサルタントが開催しています。また「グッドトイキヤラバン」「木育キヤラバン」など移動型おもちゃや美術館も事業として展開しています。

そして、今最も力を入れているのが「ウッドスター・プロジェクト」です。これは、

●ファーストトイは地産地消の木のおもちゃを！

●赤ちゃんが気持ちよくハイハイできる内装木質化の子育てサロンをつくろう！

という二つのメッセージを、自治体や企業とのコラボレーションで進めていく運動です。

一昨年からは、新宿区と長野県伊那市の木工職人さんが手を組んで、赤ちゃんの誕生祝い品として木のおもちゃを配布しています。現在、岐阜県美濃市、沖縄県国頭村など全国7箇所の自治体でコラボレーションがスタートしています。



[SYNQA]
「イトーキと Synchronaize(同
調)して進化(シンカ)していく」
という意味を込められている

都心に出現した 新しい交流型の ビジネス空間

レポート!
木の最前線

「木の最前線レポート」は、新しい「木」の時代を創出しようとする意欲的な挑戦をひろく紹介する「一ナーナー」です。今回は、中央区京橋3丁目に建つ「相互館110タワー」1~3階にある、イトーキ東京イノベーションセンターSYNQA(シンカ)をお訪ねしました。株式会社イトーキは明治23年(1890年)創業の、歴史を誇るオフィス機器メーカーの老舗です。そのイトーキさんが昨年11月、都心に斬新なビジネス空間を誕生させました。今までにない「木」の空間が出現したと話題を呼んでいます。SYNQAとはどんな空間なのか?そのコンセプトは? どんな「木」の使われ方なのか?

株式会社イトーキのソリューション開発統括部Ecoソリューション企画推進部Econifa開発推進室の末宗浩一室長に、この新しいビジネス空間について教えていただきました。

イトーキ東京イノベーションセンター 『SYNQA』の提案



外光もいっぱいに取り込んだ、開放的な空間
の1階ネットワーキングカフェ。このカフェを含
めて1階フロア全体がFSC森林認証・全体認証
を取得しています。日本では7件目の快挙

都心のオフィスを「木」で満たすという試み

木質感がいっぱいの空間という印象です。

ビジネスの新しいあり方を 提案するオフィス空間

当初のコンセプトは木質化が主目的

ではありませんでした。

今は多様な価値観が交差する時代で

す。ビジネススタイルも従来型では

ない、新しいあり方や働き方が求め

られています。企業枠にとどまらない

人と情報の流れ、新しい知の協業の

場が必要と考えました。その提案が

SYNQAです。ここはショールーム

の要素も兼ねていますが、何よりビジ

ネスの実践空間です。企業枠を超えた

プロジェクトの場であり、さまざまな

ブレイクスルーを可能にするアイディアを具体化する場であり、同時にコミュニケーション空間でもあることをめざしてデザインされました。

海外のオフィスには日本以上に木質製品が多い。木質化は、快適なオフィス空間であることの欠かせないバリューオの一つです。

材の良さが活かされた製品でなければ――

都心のオフィスを極限まで木質化する

SYNQAは、木質化することによって、どれだけ快適なオフィス空間を実現できるか、という挑戦もあります。

オフィスの多くはRC造の高層建築物の中にあります。オフィスの集中すればならない問題はまだ多い。

オフィスの多くはRC造の高層建築物の中にあります。オフィスの集中するテナントビルの中にどれだけ木質を持ち込めるか、と言つて例ええば六本木ヒルズにログハウスを持ち込むような発想はあまりにナンセンスです。SYNQAには、イトーキが現在持てる木質利用のリテラシーの枠を集めました。1~3階あわせて延床面積3400m²、ここに全体で55m²の日本各地の国産材が活用されています。では、内部を見ていただきましょうか。



木質感がいっぱいの空間という印象です。

木質化が主目的ではありませんでした。

今は多様な価値観が交差する時代です。ビジネススタイルも従来型ではない、新しいあり方や働き方が求められています。企業枠にとどまらない人と情報の流れ、新しい知の協業の場が必要と考えました。その提案がSYNQAです。ここはショールームの要素も兼ねていますが、何よりビジネスの実践空間です。企業枠を超えたプロジェクトの場であり、さまざまなブレイクスルーを可能にするアイディアを具体化する場であり、同時にコミュニケーション空間でもあることをめざしてデザインされました。

海外のオフィスには日本以上に木質製品が多い。木質化は、快適なオフィス空間であることの欠かせないバリューオの一つです。

材の良さが活かされた製品でなければ――

都心のオフィスを極限まで木質化する

SYNQAは、木質化することによって、どれだけ快適なオフィス空間を実現できるか、という挑戦もあります。

オフィスの多くはRC造の高層建築物の中にあります。オフィスの集中すればならない問題はまだ多い。

オフィスの多くはRC造の高層建築物の中にあります。オフィスの集中するテナントビルの中にどれだけ木質を持ち込めるか、と言つて例ええば六本木ヒルズにログハウスを持ち込むような発想はあまりにナンセンスです。SYNQAには、イトーキが現在持てる木質利用のリテラシーの枠を集めました。1~3階あわせて延床面積3400m²、ここに全体で55m²の日本各地の国産材が活用されています。では、内部を見ていただきましょうか。

が、歓迎すべきことは違ひありませんが、私に言わせてもらえば、あれは遅すぎるのでないか。日本の林業に対して行政はもつとスピードに手を打つべきだつたと思います。日本の木材需要は高度経済成長期を通じて、安い外材を使うようになりました。農産物については保護関税を課して自由化の波からガードし続けてきたのに、林業に関しては木材輸入へのガードは緩すぎたと思いますね。結果、日本の山林は担い手を失つて、荒れ放題となりました。今、林道整備などに着手していますが、もつと早くにすべきことでした。

今、ハウスメーカーの勢いが伸びています。住宅需要が大きくなることは歓迎ですが、そんななかで、地場の工務店さんが衰退しています。そこを何とか手助けできることはないかと、模索中です。ハウスメーカーさん任せでは、限りなく木材を使わない方向に進んでいく可能性も考えられます。ハウスメーカーさんも私どもにとつて材をお納する大切なお客様ですが、今の若い施主さんは、モデルハウスを見て家の購入を計画します。そこにもつと木材活用をした住宅のあり方を提案していきたい。工務店さんに材木屋との提携をお奨めするとか、地場の関係者を集めた講習会を行うとか、私どもも提案型の営業力を養い、工務店さんも施主さんに提案できるような仕組みを作りたいと思っています。

若い設計士さんは木についての知識、情報が乏しいので、ここにどうやって情報提供できるか。私どもには、どこにどういう材を使えばいいかというアドバ

イスは出来ますが、どんな木の使い方が好ましいかを提案する発想力が足りません。ここに若い人のアイディアの力を借りたいですね。

銘木に限らず今、木材流通は構造不況業種です。銘木の良さを伝えることはこれからも続けていきますけど、銘木には

こだわりません。それよりも木材流通のパイプをもつと太くしていくことに企業の使命を感じています。商品アイテムをもっと多様なものにし、木材利用の可能性を広げることが必要です。そのためには銘木屋らしからぬと思われる業態変化も何ら厭いません。今年JKホールディングスのグループに入りました。今

度のJKフェアには銘木は出展しません。新しいアイテムを準備中です。旧来の、まだまだ売れるという生き残りの仕

方ではなく、売る方法をアグレッシブに追求していく、木材需要の新しいかたちをつくることが私たちの課題です。

経営方針

1. 株式会社銘林は、より良い製品とサービスを提供する事に努力し、需要者の大いなる満足を得る事を念願する。
2. 株式会社銘林は、徹底的に能力主義をとり、各人の能力を最大限に発揮し、高能率・高賃金を実現する。
3. 株式会社銘林は、積極主義をとり、独創と努力で『銘林ブランド』を確立し、業界をリードする。
4. 株式会社銘林は、経営を内部公開し、社員に利益の配分を行い、社員に希望と信頼の持てる会社とする。
5. 株式会社銘林は、役員も社員も共に自分の責任と義務を果たす事に努力し、上意下達を徹底し、協調の精神に徹底する事により、会社を明るい働き易い職場とする。

各部署のオフィスに張り出されている経営方針。毎朝、朝礼時に社員全員で唱和します



株式会社 銘林
〒136-8605 東京都江東区新木場1-7-6
TEL(総務部) 03-3521-3140
(営業部) 03-3521-3141
<http://meirin-shinkiba.com/>



株式会社銘林さんは、木材・合板博物館のすぐ隣にあります。取材に伺うまで、その名から想像するとおりの伝統的な銘木屋さんのイメージを抱いていました。森山代表取締役は、古い木材流通の体質を脱ぎ捨て、新しい木材需要を造り出していくことが、今は求められている。そのためには「銘木は守り続けるが、銘木にはこだわらない」、「銘木屋らしからぬ」業態変化にも積極的にチャレンジしていく。国産材利用の促進を後押しする法律が出来たが、それはほんの少しの追い風にすぎない。構造不況業種である木材流通をつくりかえるのは、木材屋自身の仕事だと言いつります。新しい木の時代の息吹は、それを先取りする人たちのところから吹き始めているように思いました。

（博物館スタッフ 長谷川麻紀）



木材会館大ホールを会場に くらしと森林・木材の放射能をめぐるテーマで 公開シンポジウムを開催

7月18日(木)、新木場駅前の木材会

館6階大ホールを会場に、(独)森林総合研究所主催による公開シンポジウム「私たちのくらしと森林・木材の放射能」森林総研が解き明かすその実態と今後」が開催され、7つの講演(研究発表)とパネルディスカッションが行われました。

このシンポジウムは、2011年3月の東京電力福島第一原子力発電所の放射能事故以来、森林総研に寄せられた放射能汚染に関するさまざまな不安や質問に対し、研究所の調査結果をひろく紹介し、最新情報の共有、今後取り組むべき課題を議論する目的で開催されました。会場は事前申込者の約300人の出席者で一杯となりました。(以下、抄録で紹介。文責筆者)

森林総研の調査結果をばばひろく紹介

講演のはじめは、高橋正通研究コードイネーテが原発事故後の調査研究のあらまし、各発表の要点紹介を行い、放射能汚染が森林の多面的な機能に深刻な影響

を及ぼし、事故の重大性と回復の必要性を訴え、以下に各氏の研究発表が続きました。立地環境研究領域長の金子真司氏からは、「放射性セシウムの蓄積と分布の変化を探る」と題して、原発から距離と汚染度の異なる福島県3箇所の調査結果の報告。水土保全研究領域長の坪山良夫氏は、「森林溪流水の放射性セシウムのモニタリングする」と題して、県内6箇所の森林からの溪流水の調査結果から全測定日の3%程度しか検出限界の1Bq/lを超えたことを報告。森林昆虫研究領域主任研究員の長谷川元洋氏は、「森林にすむ生物内の放射性物質」と題し、ミミズとネズミの体内セシウム濃度の説明があり、落ち葉を餌とするミニズのセシウム濃度は餌の影響を受けやすいことを報告。木材特性研究領域長の高野勉氏からは、「木材中の放射性セシウムの動きを追う」と題し、樹木の樹皮、辺材、心材の比較で樹皮が最も高く、材の内部はきわめて低濃度で、木材を使つた部屋で暮らす場合の追加被曝は小さい

という計算結果が報告されました。

福島県木材業界による自主検査

注※ cpm(カウント・パー・ミニッツ)とは、放射線測定器に1分間に入ってきた放射線の数を示す単位。



パネラーに講演者も加わるかたちで行われたパネルディスカッション



出席者で埋め尽くされた会場



福島県の木材業界による製材品の自主検査について報告する、福島県木材協同組合連合会専務理事の宗形芳明氏